

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民が市政についてどのように考え、また何を望んでいるのかを統計的に把握するとともに、施策の評価や市政への関心・意識の程度を調査し、市政運営上の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

調査項目は以下のとおりである。

調査事項	調査項目
回答者属性	性別，年齢，職業，家族構成，居住年数，居住地域，居住地区
宇都宮市に対する感じ方	宇都宮市の好き・嫌い，好きな理由，嫌いな理由
広報媒体の活用状況	市政情報の各広報媒体の視聴状況，「広報うつのみや」の入手方法，入手しない理由，「広報うつのみや」で読んでいる記事，市ホームページで詳細な情報を入手するためのQRコードやページIDの利用状況，「広報うつのみや」に関する感想，取り上げてほしい話題・情報，市のホームページを見るための主な手段，ホームページで知りたい情報はどこから探すか，ホームページで知りたい情報は探しやすいか，ホームページに関する感想，充実してほしい機能や情報，市政情報をどんな手段で知りたいか
宇都宮市の景観	宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか，「宇都宮らしい景観」とは何か，良好な都市景観の形成に必要なこと，屋外広告物についての印象，よりよい景観形成のために屋外広告物の基準を強化する地域
食品ロスの削減	「食品ロス」が問題となっていることの認知度，「食品ロス」を減らすために取り組んでいること，フードバンク活動の認知度
特別支援教育	「発達障がい」についての認知度，「特別支援教育」についての認知度
結婚・出産・子育てに関する意識	結婚しているか，結婚するつもりがあるか，結婚している場合，全部で何人のお子さんを持ちたいか，結婚を予定している場合，子どもは何人ほしいか
空き家及び防犯・交通安全に関する意識	管理が不十分な空き家が増えていると感じるか，近所の空き家の活用方法，「宇都宮空き家会議」の認知度，宇都宮市で生活する中で，安心して暮らすことができているか，自転車保険の加入状況
いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会	栃木県で国体が開催されることの認知度，とちぎ国体へボランティアとしての参加意向，ボランティア情報の入手方法，国体を盛り上げるために重要だと思うこと
生物多様性	生物多様性という言葉の認知度，外来種が及ぼす影響についての認知度，生物多様性を保全する活動に参加したいか
自転車のまちづくり	自転車の利用頻度，宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思えるか，自転車のまちづくりを進めていくために必要な取り組み
「大谷石文化」の日本遺産認定	「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度，「大谷石文化」を誇りに感じるか

まちづくり活動	まちづくり活動の参加状況，参加中または興味があるまちづくり活動の種類，まちづくり活動に参加したいと思わない，または参加できない理由
SDGs (エス・ディー・ジーズ)	SDGs についての認知度，SDGs について知っている内容，SDGs について知った手段
男女共同参画	家事・育児・介護それぞれに費やした時間，社会的な活動の実施状況，配偶者からの暴力を受けた経験，LGBT（エルジービーティー）の認知度
雨水貯留・浸透施設の補助金制度	雨水貯留・浸透施設の認知度，雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度，雨水貯留・浸透施設の設置効果についての認知度，雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うか，設置希望・既設置の理由，設置したくない理由

3. 調査の設計

- 調査地域 宇都宮市全域
- 調査対象者 満 18 歳以上 80 歳未満の日本国籍を有する市民 4,800 人
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法 郵送法（回収にあたってはインターネットを併用）
- 調査期間 令和 2 年 8 月 3 日～8 月 28 日

4. 回収結果

調査対象数	有効回答数	有効回答率
4,800	2,461	51.3%

<性別・年齢別の回収状況>

年代	性別	調査対象数	郵送		インターネット		合計	
			回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
10歳代	男性	42	12	28.6%	10	23.8%	22	52.4%
	女性	39	7	17.9%	11	28.2%	18	46.2%
	計	81	19	23.5%	21	25.9%	40	49.4%
20歳代	男性	261	45	17.2%	24	9.2%	69	26.4%
	女性	232	61	26.3%	24	10.3%	85	36.6%
	計	493	106	21.5%	48	9.7%	154	31.2%
30歳代	男性	413	78	18.9%	45	10.9%	123	29.8%
	女性	335	107	31.9%	39	11.6%	146	43.6%
	計	748	185	24.7%	84	11.2%	269	36.0%
40歳代	男性	548	130	23.7%	81	14.8%	211	38.5%
	女性	438	196	44.7%	52	11.9%	248	56.6%
	計	986	326	33.1%	133	13.5%	459	46.6%
50歳代	男性	435	165	37.9%	45	10.3%	210	48.3%
	女性	351	187	53.3%	27	7.7%	214	61.0%
	計	786	352	44.8%	72	9.2%	424	53.9%
60歳代	男性	397	177	44.6%	41	10.3%	218	54.9%
	女性	438	289	66.0%	16	3.7%	305	69.6%
	計	835	466	55.8%	57	6.8%	523	62.6%
70歳以上	男性	360	204	56.7%	20	5.6%	224	62.2%
	女性	511	337	65.9%	7	1.4%	344	67.3%
	計	871	541	62.1%	27	3.1%	568	65.2%
年代不明	男性	—	0	—	0	—	0	—
	女性	—	3	—	0	—	3	—
	不明	—	21	—	0	—	21	—
	計	—	24	—	0	—	24	—
全体	男性	2,456	811	33.0%	266	10.8%	1,077	43.9%
	女性	2,344	1,187	50.6%	176	7.5%	1,363	58.1%
	不明	—	21	—	0	—	21	—
合計		4,800	2,019	42.1%	442	9.2%	2,461	51.3%

5. 標本誤差

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになる。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となる。その精度は以下の式で表わされる標本誤差を算出することで把握できる。

通常のアンケートでは、信頼度として95%がとられるケースが多い。信頼度95%とは、100回に5回がその標本誤差の範囲におさまらないという意味である。

次の表は、本調査における信頼度95%の場合の標本早見表である。

回答の比率 (P) 回答数 (n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
2,461	±1.18%	±1.58%	±1.80%	±1.93%	±1.97%
2,000	±1.31%	±1.75%	±2.00%	±2.14%	±2.19%
1,600	±1.47%	±1.96%	±2.24%	±2.40%	±2.45%
1,200	±1.69%	±2.26%	±2.59%	±2.77%	±2.82%
800	±2.08%	±2.77%	±3.17%	±3.39%	±3.46%
400	±2.94%	±3.92%	±4.49%	±4.80%	±4.90%

<標本誤差の算出方法>

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

b : 標本誤差

N : 母集団数 (宇都宮市の18歳以上80歳未満人口)

n : 比率算出の基礎 (回答者数)

P : 回答の比率 (%)

1.96 : 信頼度95%の場合 (信頼度99%の場合は2.58を使用)

<表の見方>

この表の見方としては、例えば、回答者数が2,461で宇都宮市が「好き」との答えが47.9%であった場合、「その回答比率の範囲は最高でも47.9%±1.97%以内(45.93%~49.87%)である」とみることができる。

6. 調査報告書の見方

- 集計値は、小数点第2位を四捨五入とする。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- 基数となるべき実数はnとして表示した。その比率は、件数を100.0%として算出した。